

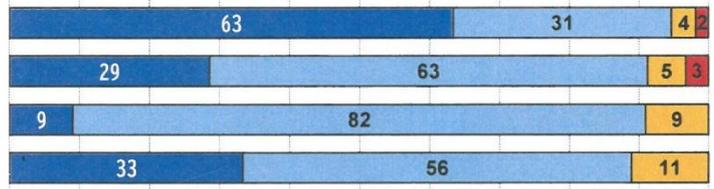
令和7年度<前期>

八幡浜市立白浜小学校 学校評価集計表

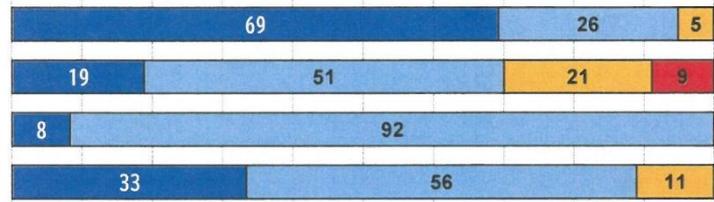
■ 十分達成できている
 ■ おおむね達成できている
 ■ どちらかといえば課題がある
 ■ 課題がある

育てたい子どもの姿

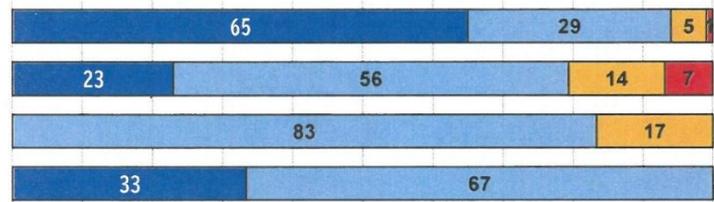
1	児童	明るく元気に笑顔で登校する。
	保護者	
	教職員	
	地域	



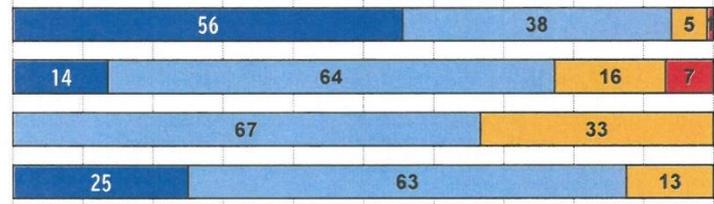
2	児童	気持ちのよいあいさつをする。
	保護者	
	教職員	
	地域	



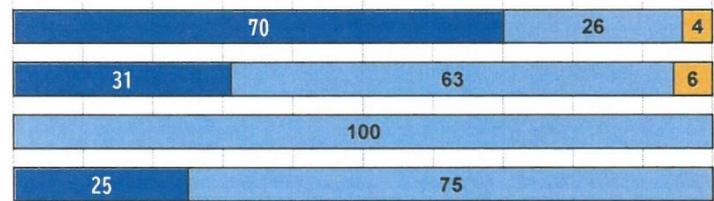
3	児童	授業中はまじめに集中して学習する。
	保護者	
	教職員	
	地域	



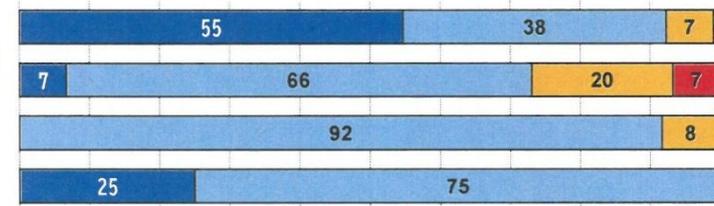
4	児童	人の話は「目・耳・心」で静かに聞く。
	保護者	
	教職員	
	地域	



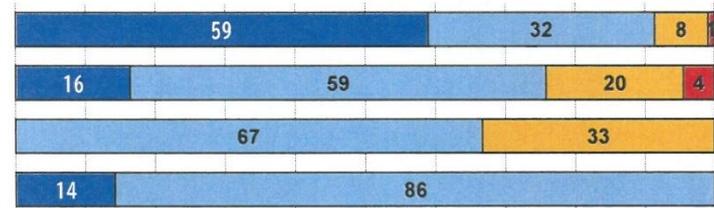
5	児童	思いやりの気持ちを持つ。
	保護者	
	教職員	
	地域	



6	児童	正しい言葉づかいをする。
	保護者	
	教職員	
	地域	



7	児童	時間を守って生活する。
	保護者	
	教職員	
	地域	



1 高く評価された項目

○ 思いやりの気持ちを持つ

児童、保護者、教職員の9割以上が肯定的に評価しています。道徳教育において、「親切・思いやり」を重点目標に挙げて取り組んでいる成果が出ています。

○ 明るく元気に笑顔で登校する

児童、保護者、教職員の9割以上が肯定的に評価しています。保護者、地域の方の見守り活動もあり、子どもたちが学校生活を前向きに捉え、活気ある雰囲気を作られています。

○ 気持ちのよいあいさつをする

児童と教職員の9割以上が肯定的に評価しています。しかし、保護者の肯定的な評価は70%にとどまり、学校外でのあいさつ習慣が今後の課題として挙げられます。

2 回答者別の傾向

- (1) 【児童】自分や学校の活動に自信を持ち、素直に評価する傾向が見られます。特に「明るく元気に笑顔で登校する」や「気持ちのよいあいさつをする」といった項目で評価が高いのが特徴です。
- (2) 【保護者】客観的な視点から、子どもたちの課題を指摘する傾向が見られます。特に「正しい言葉づかいをする」や「時間を守って生活する」といった生活習慣の項目で課題を感じられています。
- (3) 【教職員】日常の教育活動を踏まえ、具体的な課題を指摘する傾向が見られます。特に「人の話は『目・耳・心』で静かに聞く」という学習の基礎となる項目に課題意識を持っています。
- (4) 【地域住民】学校を温かく見守る傾向があり、「明るく元気に笑顔で登校する」や「気持ちのよいあいさつをする」といった項目を高く評価しています。

3 課題

(1) 認識のギャップ

児童、保護者、教職員の間で、子どもたちの様子や状況に対する認識にズレがあります。特に「気持ちのよいあいさつ」や「明るく元気に笑顔で登校する」といった項目で、児童の自己評価と保護者の評価に大きなギャップが見られます。

(2) 生活習慣の課題

保護者から最も多く課題として指摘されたのは、「正しい言葉づかい」と「時間を守って生活する」です。

(3) 聞く姿勢の課題

教職員が特に課題と感じている「人の話は『目・耳・心』で静かに聞く」という項目は、学習の基礎となるものです。

4 今後の取組

結果を踏まえ、保護者の皆様と連携しながら、以下の取組を重点的に進めていきます。

(1) 言葉づかいの習慣化

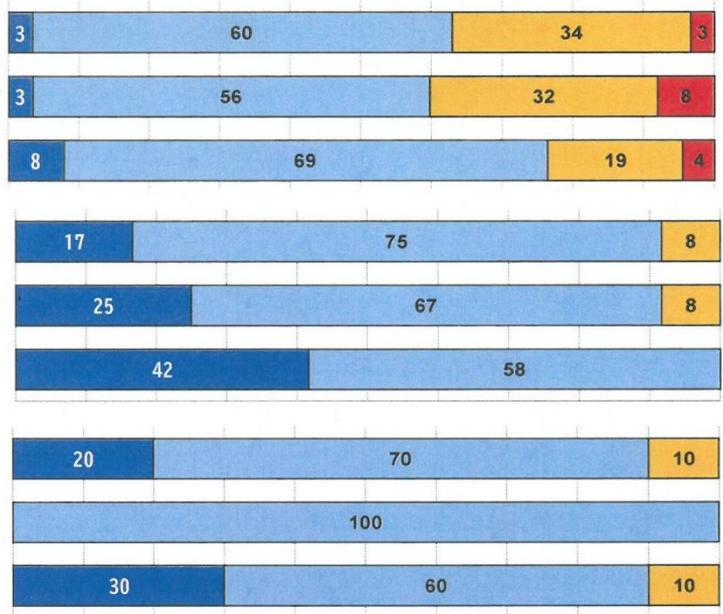
正しい言葉づかいは、社会性を育む上で非常に重要です。学校だけではなく、御家庭でも正しい言葉づかいを意識していただくことで、子どもたちの言葉づかいは大きく向上します。学校、家庭で情報交換をし、連携しながら改善を図っていきたいと思います。

(2) 授業中の姿勢の向上

教職員は、児童の「授業中はまじめに集中して学習する」という点に課題を感じています。授業中は真剣に学習し、人の話を「目・耳・心」で聞く態度を身に付けられるよう、今後も意識して指導してまいります。

努力事項

保護者	保護者は、子どもの成長のために、良いモデルを示そうとしている。
	保護者は、子どものしつけのために、上手に叱って上手に褒めようとしている。
	子どものストレスを癒すために、心が安らぐ場を作ろうとしている。
教職員	教職員は、互いに信頼し合い、強い絆で結ばれる学校づくりに努めている。
	教職員は、心身ともに健やかで、感動を味わえる学校づくりに努めている。
	教職員は、確かな学力を身に付け、一人一人が輝く学校づくりに努めている。
地域	地域は、愛着を持たせるために、温かい声掛けをしようとしている。
	地域は、学力の基盤をつくるための取組に進んで関わろうとしている。
	地域は、社会性を育むために愛情を持って寄り添おうとしている。



1 高く評価された項目

教職員と地域の方々からの評価が全ての項目で肯定率が90%以上です。特に、教職員は「確かな学力を身に付け、一人ひとりが輝く学校づくり」についての評価が、地域の方々では「学力の基盤をつくるための取組」の評価が高くなっています。

2 回答者別の傾向

【保護者】保護者の皆様は、お子様との向き合い方や子育てについて、より高い理想を持って取り組んでおり、それゆえに「課題」を自覚している様子がうかがえます。特に「上手に叱る・褒める」や「良いモデルを示す」といった項目に関する課題意識が高くなっています。一方で、「心が安らぐ場を作る」という項目では、7割以上が肯定的に評価しており、日々の努力が着実に実を結んでいることが分かります。

【教職員】教職員は、自身の学校運営や教育活動に対して一体感を持っていることが特徴です。9割以上が肯定的評価をしており、特に「確かな学力」の向上や「心の絆」づくりにおいて、目標を達成できていると感じています。

【地域】地域の方々は、学校の教育活動に対して協力的で前向きな姿勢を示しています。学校に対する愛着を持って温かく見守り、子どもたちの成長を愛情深く支えようとする姿勢が表れています。

3 課題

(1) 子育ての悩みへの対応

「上手に叱って上手に褒める」という項目において、約4割の保護者が「課題がある」と回答しています。子どものしつけや育て方に難しさを感じている保護者がいると推測されます。

(2) 子どもたちの社会性の育成

「社会性を育むために愛情を持って寄り添う」という項目では、回答した地域の1割が「どちらかといえば課題がある」と回答しています。

4 今後の取組

(1) 子育てに関する情報交換の機会の設定

子どもの成長段階に合わせた接し方や、より効果的なコミュニケーション方法について、学級PTA等で情報交換できる場を設けます。

(2) 地域との連携強化

子どもたちが地域の方々と交流し、多様な人々と関わる機会を増やせるよう、学校と地域が協力して行事や活動を行っていきます。